

第3章 まちの姿の実現に向けた取組み

- まちづくりは、長期的かつ段階的な取組みが必要であり、さらに、複数のまちづくりに関わる主体が連携して取組むことが重要です。
- 基本方針毎に、まちの姿の実現に向けた取組みの方向性を整理し、まちづくりに関わる主体間で、基本方針と合わせて共有し、まちづくりの着実な推進を図ります。
- 次頁より、方針毎に総括図を記載したのち、以下のまちづくりの展開及びその取組みの方向性と検討内容等を示しています。

基本方針	まちづくりの展開
基本方針1	<ul style="list-style-type: none">■ビジネス拠点・交流拠点に必要な都市機能を強化する■駅・駅前広場を中心に象徴的空間を形成する■リニア駅周辺街区の面的整備を推進する■防災性が高く、エネルギー効率の高いまちを形成する
基本方針2	<ul style="list-style-type: none">■誰にでもわかりやすく利用しやすい乗換空間を形成する■交通施設を効率的・効果的に配置する■広域道路ネットワークへのアクセス性改善を推進する
基本方針3	<ul style="list-style-type: none">■地区の特色を活かしたまちをつくる■訪れた人が心地よさを感じる空間を形成する■駅からまちへ、まちからまちへつないでいく■栄、名古屋城などとの連携を強化する
基本方針4	<ul style="list-style-type: none">■目標と進め方を共有してまちづくりを進める

【基本方針1】

国際的・広域的な役割を担う 圏域の拠点・顔を目指す

- (1) 国際的・広域的なビジネス拠点・交流拠点を形成する
- (2) 玄関口にふさわしい風格と賑わいを感じさせる顔づくりを進める
- (3) ビジネス拠点・交流拠点にふさわしい安全性を確保するとともに、環境負荷の少ないまちを形成する

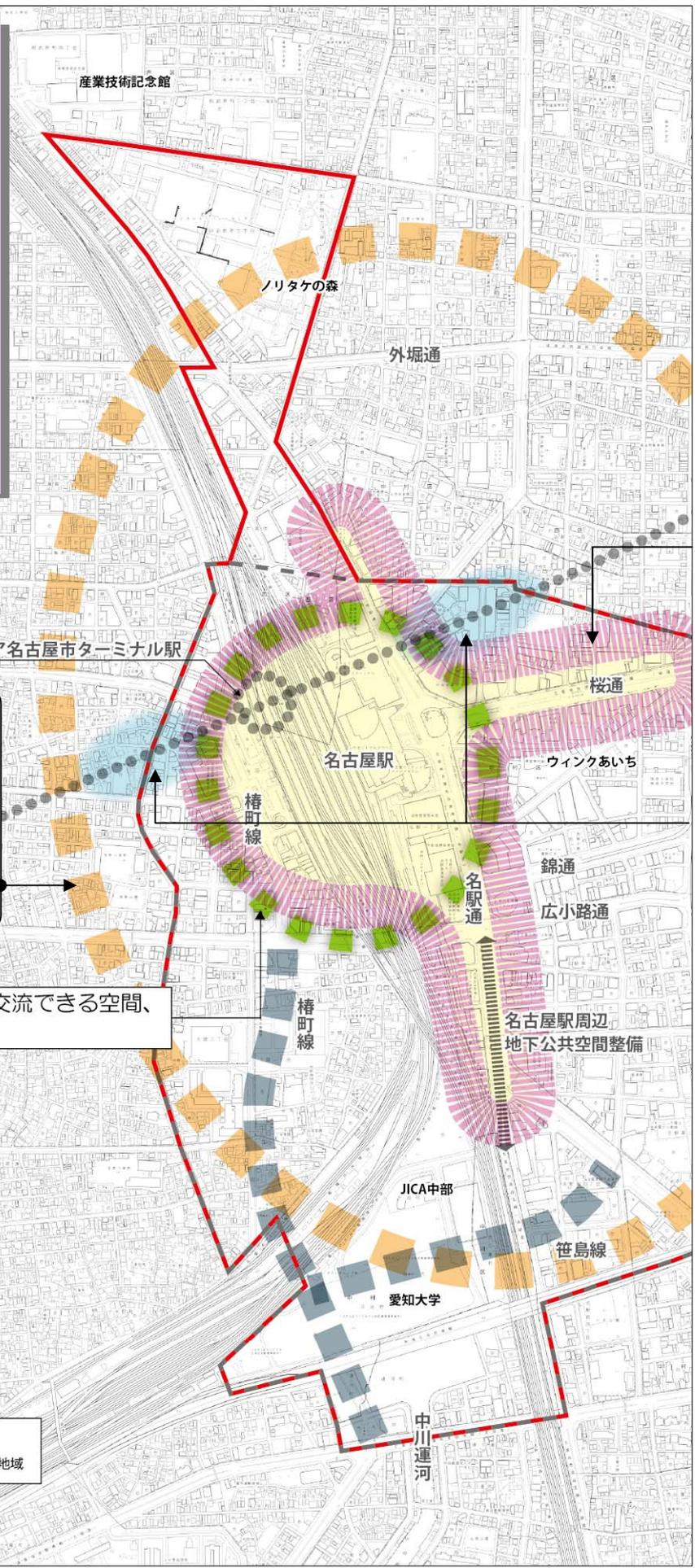
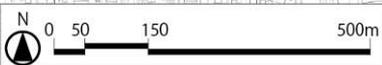
■ビジネス拠点・交流拠点に必要な都市機能を強化する

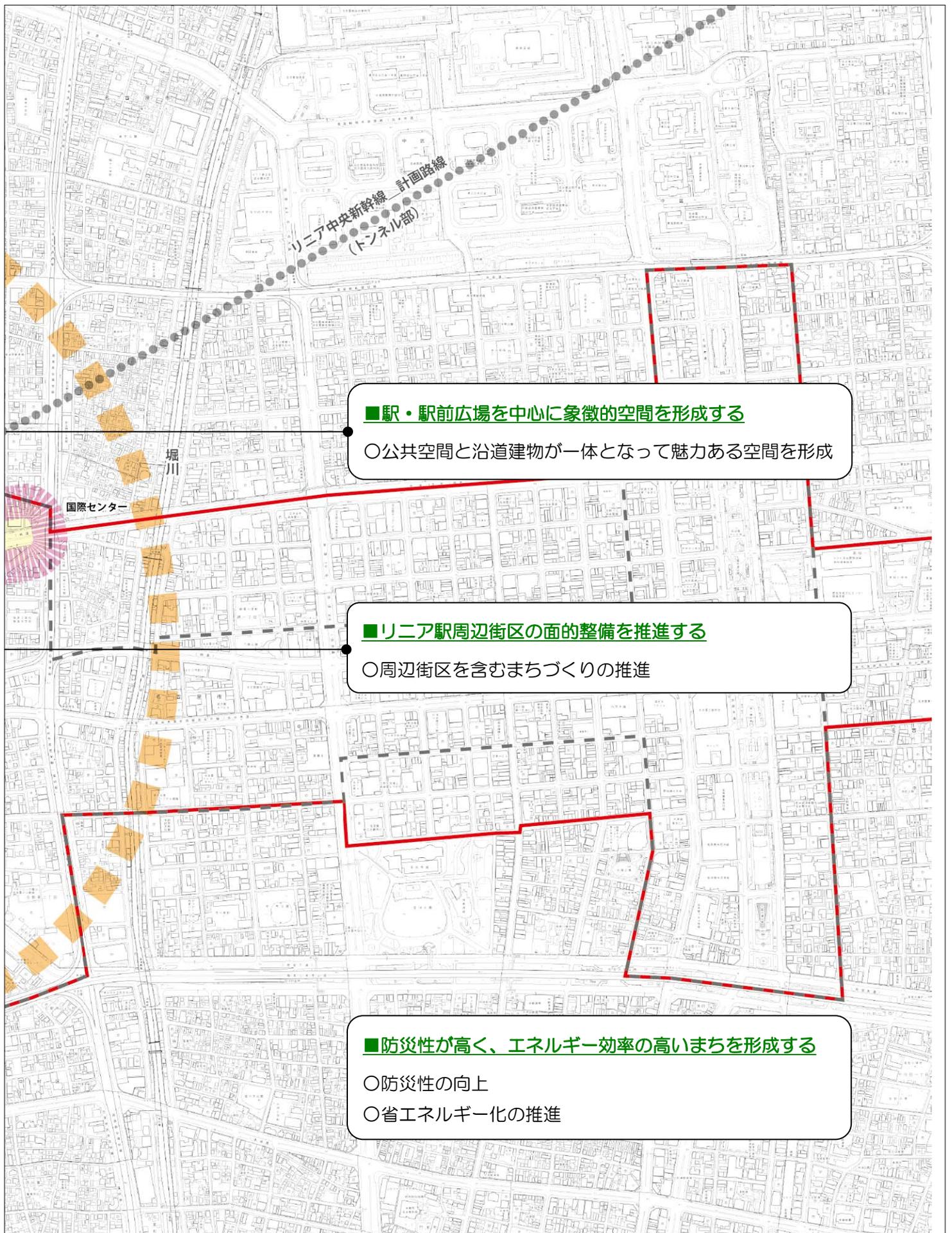
- ビジネス拠点性を高める都市機能の強化
- 交流を促進し、来訪者をもてなす機能の強化

集い・憩い・滞留し、交流できる空間、
観光案内所の設置等

〈 凡 例 〉

— 都市再生緊急整備地域 - - - 特定都市再生緊急整備地域





▶ ビジネス拠点・交流拠点に必要な都市機能を強化する

取組み1

ビジネス拠点性を高める都市機能の強化

- 業務機能と業務支援機能の立地を進めます。
- 都市再生特別地区などの都市計画制度を活用して、都市機能強化に資する民間再開発を進めます。

(業務機能のイメージ)

- 企業の本社や支社、外資系企業の日本・アジア拠点などの立地先となる高品質なオフィス
(例) 大規模フロアや高い設備グレード、セキュリティを備えたオフィス
- 比較的規模の小さな企業を受け入れ、企業間の交流などにより新たなビジネス創出につながる多様なオフィス
(例) シェアオフィス*、インキュベーションオフィス*

(業務支援機能のイメージ)

- 交通利便性の高さを活かして、活発なビジネス交流（講演会、セミナー、学会、新製品発表会等）を支える機能
(例) 大小様々な会議室、ホール、展示場施設、交流サロン*、産学官連携施設
- ものづくり産業の盛んな中部圏の拠点として、ものづくりの文化や技術に関する情報を国内外に発信していく機能
(例) 最先端の技術の発信や企業アピールを行うためのギャラリー
- 就業者の働き易さの向上につながる外国語対応も可能な各種サービス機能
(例) 子育て支援施設、健康増進施設、医療施設
- 就業者の能力向上などを支援する教育機能
(例) 大学、専門学校

企業ギャラリーの例



写真提供：マザック工作機械ギャラリー

○シェアオフィス 複数の利用者が同じスペースを共有するオフィス。入居者間の交流を通じた人脈形成やイノベーションを付加価値とする施設が多い。

○インキュベーションオフィス 起業予定者や起業後間もない企業を支援する施設。専門家による経営支援が行われる施設が多い。

○交流サロン 様々な業界や職種の就業者が集い、情報交換や人脈形成、企業交流を育む場。

取組み 2

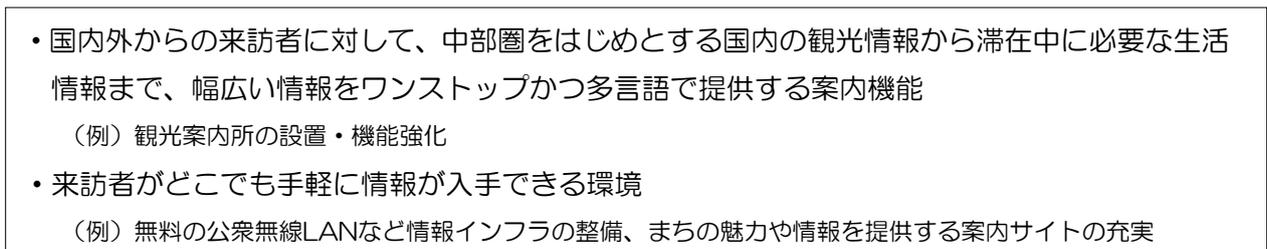
交流を促進し、来訪者をもてなす機能の強化

- 来訪者が、集い・憩い・滞留し、交流できる空間を駅・駅前広場やその周辺で確保します。
- 案内機能、商業機能、宿泊機能の立地を進めます。
- 都市再生特別地区などの都市計画制度を活用して、都市機能強化に資する民間再開発を進めます。

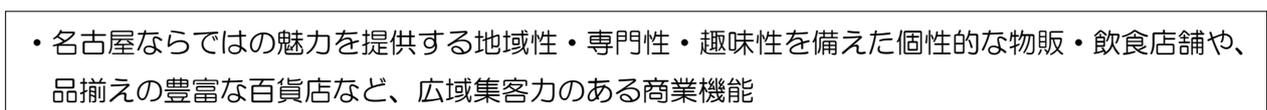
(集い・憩い・滞留し、交流できる空間のイメージ)



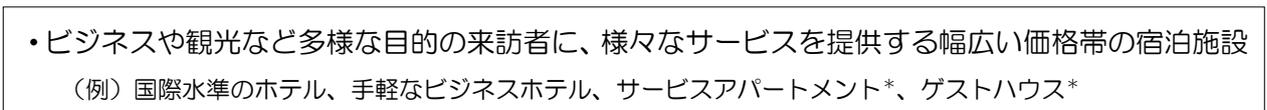
(案内機能のイメージ)



(商業機能のイメージ)

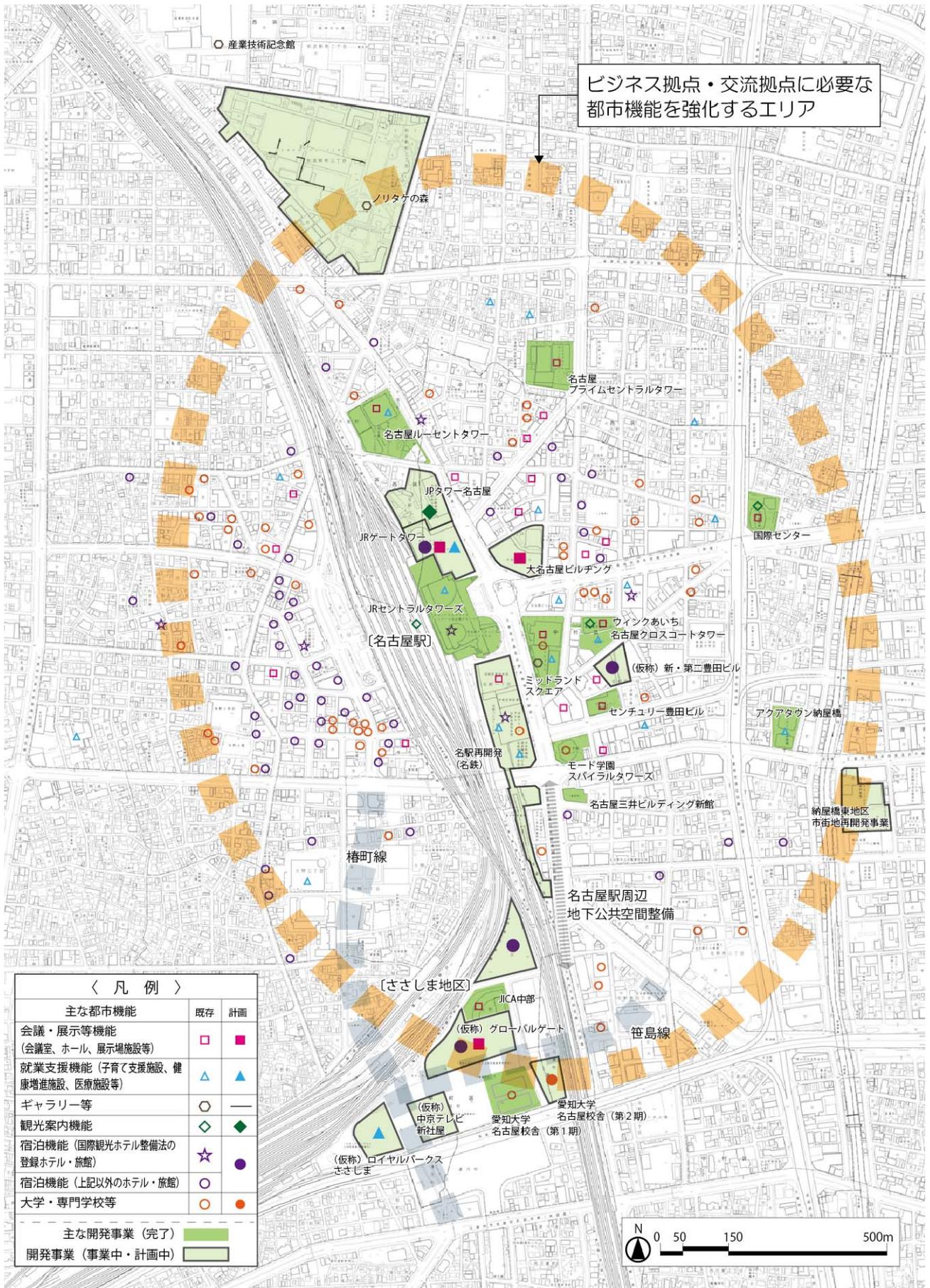


(宿泊機能のイメージ)



- サービスアパートメント フロントサービスやハウスクリーニングサービスなどホテルのようなサービスが受けられる賃貸マンション。通常1か月程度から借りられ、家具家電及び日用品が付属しているのが一般的。
- ゲストハウス 比較的安価な料金で利用できる、バックパッカーの利用などに主眼を置いた宿泊施設。リビングなどの共同スペースで他の旅行者との交流ができるのが特徴。

◆主な開発事業と都市機能の立地



➤ 駅・駅前広場を中心に象徴的空間を形成する

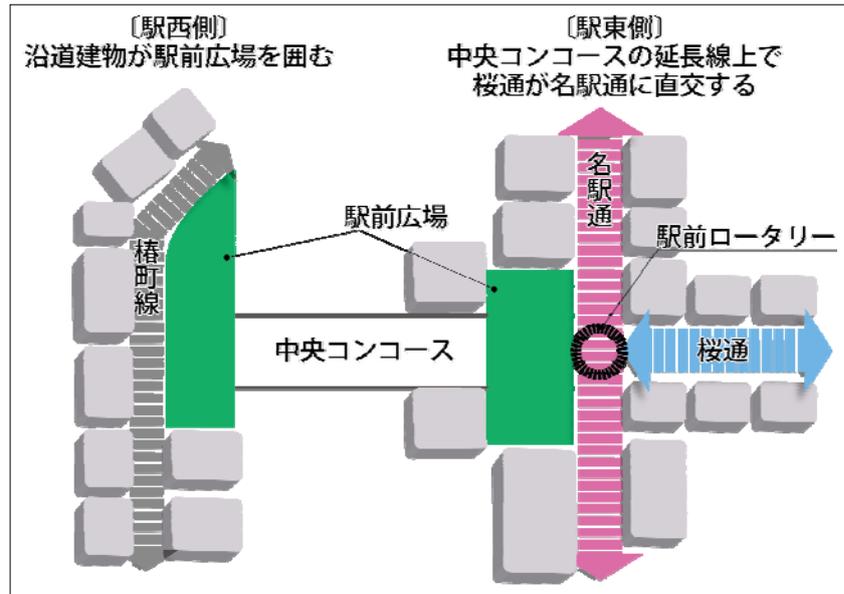
取組み 3

公共空間と沿道建物が一体となって魅力ある空間を形成

- 駅・駅前広場を中心に、名駅通・桜通・椿町線と沿道建物が一体となって名古屋大都市圏の顔となるよう風格やにぎわいが感じられる空間を形成します。
- 空間のデザインについて広く叢智を集め、世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤにふさわしいものを目指します。

(空間形成の考え方)

◆ 名古屋駅東西の空間構成



駅正面の幹線道路からの見え方に配慮した例
(博多駅前)



にぎわいが感じられる広場の例
(渋谷駅前)



- ・ 駅・駅前広場は、名古屋大都市圏の玄関口にふさわしい高質な空間を形成する。
- ・ 駅東側は、名駅通の歩行者空間拡充や駅前広場の再整備などにより、広がりがあり、人々の活気が感じられる空間を形成する。特に、桜通からの見え方に配慮したデザインとする。
- ・ 駅西側は、再整備する駅前広場を中心に、にぎわいが感じられる空間を形成する。
- ・ 名駅通、桜通の沿道建物は、量感のあるものとし、桜通は、ピスタ*を意識した景観を形成する。椿町線の沿道建物は、まちなぎわいづくりに配慮した施設とする。

○ピスタ 両側に並木や建築物などが並んだ奥行き深い眺めで、「通景」や「見通し景観」などともいう。

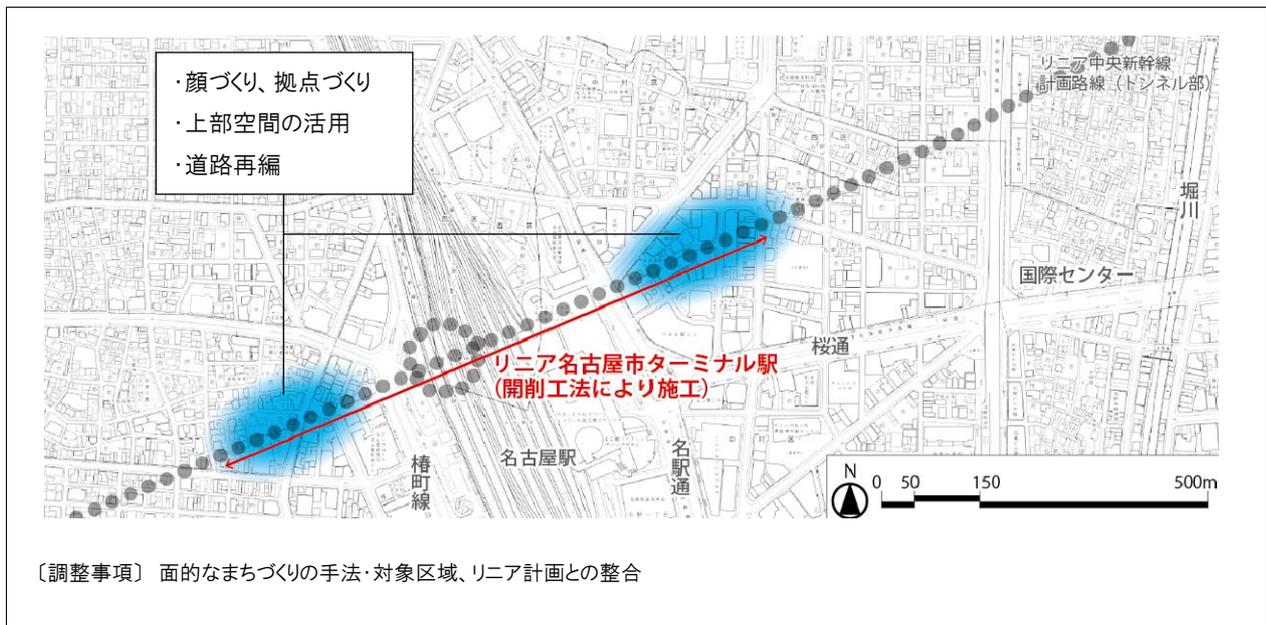
リニア駅周辺街区の面的整備を推進する

取組み 4

周辺街区を含むまちづくりの推進

- リニア駅は、開削工法により施工される予定ですが、不整形な残地や未接道の土地が生じることや、上部にまとまった空地が生じる可能性があります。駅が整備されるエリアは、名古屋駅に近接する貴重な土地であることから、その上部空間の活用とともに、その周辺街区を含めた面的なまちづくりを進めます。

(検討すべき内容)



▶ 防災性が高く、エネルギー効率の高いまちを形成する

取組み5

防災性の向上

- 大規模地震発生時の帰宅困難者対策や浸水対策を推進します。
- 防災性の向上のため、地下街の改善を進めます。
- 高い防災性を備えた建築物の整備を進めます。

(帰宅困難者対策等)

- ・滞在者などが施設の安全性が確認されるまでの間、留まるための一時退避場所の確保を進める。
(例) 公園の整備、公開空地の確保
- ・交通機関の運行停止により帰宅困難者が一定期間地区内に留まることになるため、屋内の退避施設の確保を進める。
(例) 民間再開発の建物や既存建物のエントランスホール等の活用
- ・帰宅困難者を留める際に必要な物資の備蓄倉庫や、退避や移動の際に有用な情報を提供する施設を整備する。

一時退避場所の例
(名古屋ルーセントタワー)



(浸水対策)

- ・平成12年の東海豪雨、平成20年8月末豪雨などをを受けて策定した緊急雨水整備基本計画及び第2次緊急雨水整備計画に基づき、浸水対策を実施している。

◆名古屋駅周辺における浸水対策の主な内容

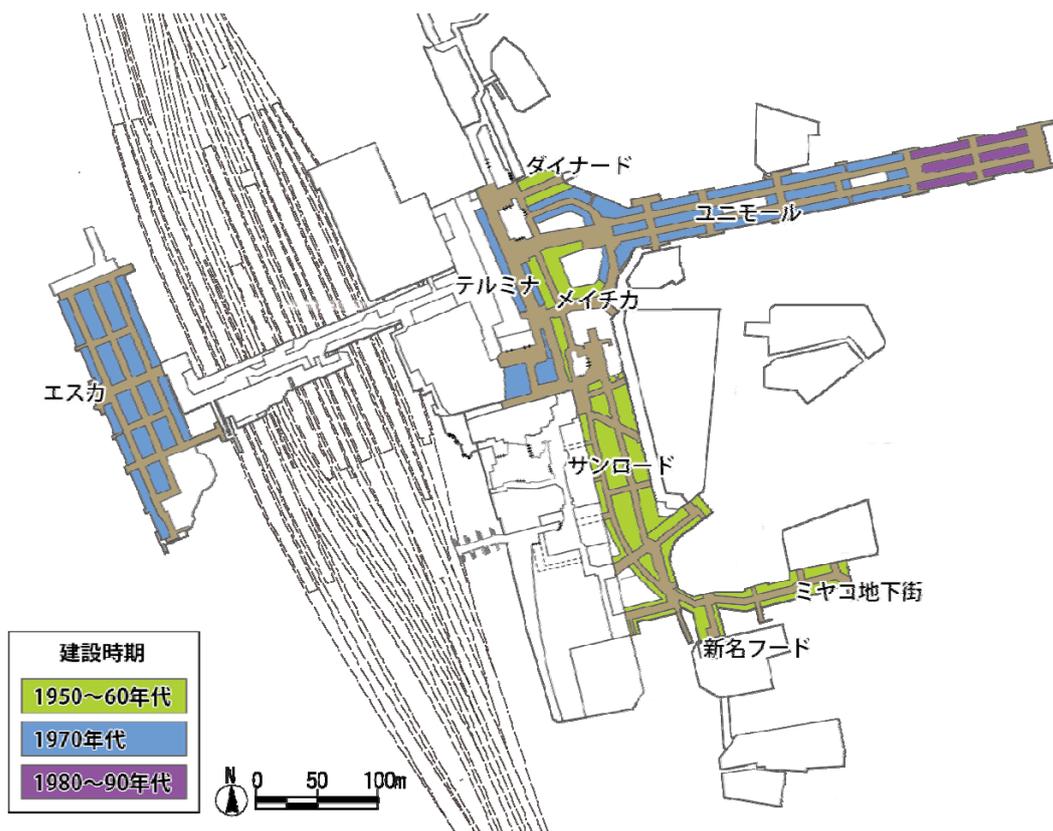
緊急雨水整備事業	計画内容
○緊急雨水整備基本計画(前期) [H13年度から概ね5年間]	貯留管4か所(貯留量合計約32,400m ³)
○第2次緊急雨水整備計画 [H21年度から概ね10年間]	貯留管4か所(貯留量合計約114,000m ³)

(地下街の改善)

- 名古屋駅周辺の地下街は、建設年が古いものもあることから、防災性の向上のため、地下街の改善を進める。

(例) 避難階段の設置、排煙性能の向上

◆名古屋駅周辺の地下街の変遷



(建築物の防災性向上)

- 民間再開発により、大規模災害発生時にも事業を継続できるなど高い防災性能を備えた建築物の整備を促進する。

(例) 耐震性能の強化、大容量の非常用発電設備の設置、雨水貯留槽の設置

耐震性能の強化の例(免震装置)



取組み6

省エネルギー化の推進

- 環境性能の高い建築物の整備、エネルギーの面的利用の推進など環境負荷の少ないまちづくりを推進します。

(建築物の省エネルギー化)

- ・個々の建築物の省エネルギー化を進める。
(例) 高断熱性の外壁・Low-eガラスの採用、
屋光制御・人感制御の導入、壁面緑化、
屋上緑化などによるCASBEE名古屋*
Sクラスの取得

壁面緑化のイメージ
/JPタワー名古屋(計画)



屋上緑化のイメージ
/大名古屋ビルヂング(計画)

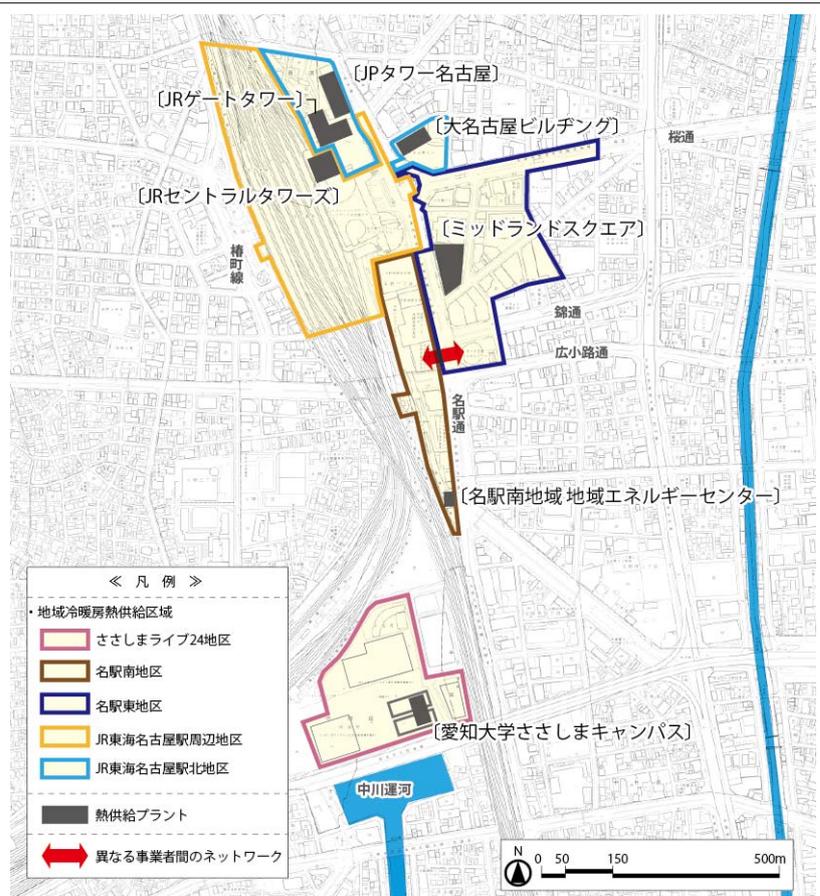


(エネルギーの面的利用)

- ・地域冷暖房の導入とネットワーク化などを推進し、エネルギーの面的利用を推進する。

◆名古屋駅周辺の地域冷暖房ネットワークの状況(概略図)

- ・名古屋駅周辺では、5つの熱供給事業が行われている。
- ・名駅南地区と名駅東地区では、異なる事業者間でネットワーク化されている。



○CASBEE 名古屋

「CASBEE(建築環境総合性能評価システム)」とは、環境性能で建築物を評価し格付けする手法。「CASBEE 名古屋」は、室内環境などの環境品質と、エネルギー、資源、CO₂などの環境負荷について評価を行うもので、S、A、B+、B-、Cの5つのランクに格付けされる。

【基本方針2】

誰にも使いやすい国際レベルのターミナル駅をつくる

- (1) 初めての人や外国人にもわかりやすいターミナル駅を形成する
- (2) リニアの速達性を活かすなど交通機関相互の乗換利便性を向上する

魅力ある空間の形成と駅へのアクセス
利便性を確保した駅前広場周辺の再整備

リニア駅の上部空間における有効活用

わかりやすい乗換空間の形成

南北ネットワークの強化

既存通路の環境整備

南北ネットワークの強化

東西ネットワークの強化

リニア名古屋駅ターミナル駅

JR線

東海道新幹線

地下鉄
桜通線
(地下)

あおなみ線

■誰にでもわかりやすく利用しやすい乗換空間を形成する

- リニアと各交通機関との乗換利便性を確保
- 乗換主動線の明確化と直線化
- 「(仮称) ターミナルスクエア」の形成
- 乗換主動線の円滑化
- 乗換を支える案内サインの充実

鉄道駅、バスセンターの再整備等
により利便性・快適性の高い空港
アクセスと地域交通の拠点形成



0 20 50 150m

誰にでもわかりやすく利用しやすい乗換空間を形成する

取組み 1

リニアと各交通機関との乗換利便性を確保

- リニアの速達性を活かすため、名古屋駅を訪れる人々の多様な目的に応じた乗換利便性を確保します。

(リニアと各交通機関との乗換の考え方)

- 東海道新幹線との接続に加え、栄などの都心方面や空港、観光地、周辺都市とつなぐ鉄道や自動車交通との乗換利便性を確保する。

リニアと各交通機関との乗換のイメージ



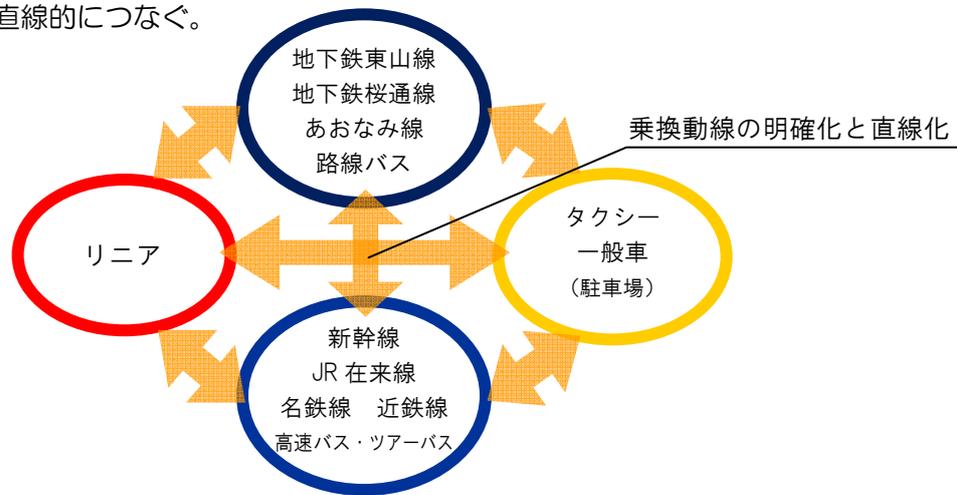
取組み 2

乗換主動線の明確化と直線化

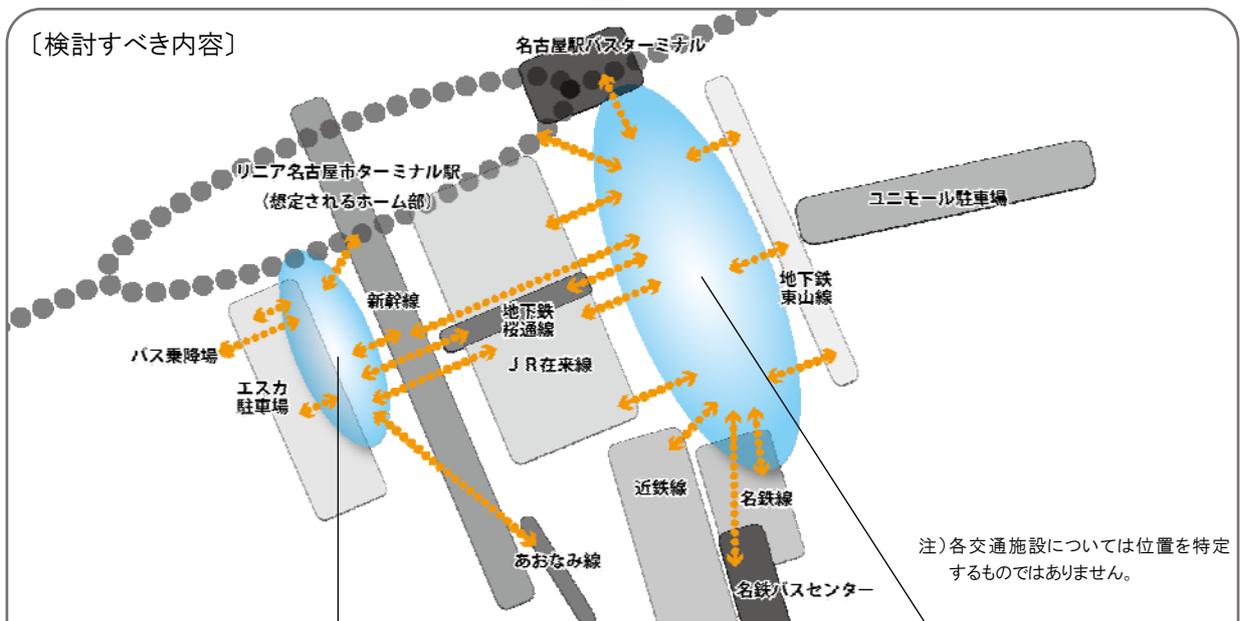
- 名古屋駅は鉄道やバスなど複数の交通施設が分散配置され、多くの乗換動線があることから、乗換主動線を明確化し、できる限り直線化することで、初めて訪れる人にもわかりやすく、利用しやすい乗換動線を確保します。

(交通機関相互の乗換動線の考え方)

- ・乗換主動線を視覚的にわかりやすくするとともに、既存施設によって迂回・分散される乗換動線をできる限り直線的につなぐ。



[検討すべき内容]



注) 各交通施設については位置を特定するものではありません。

- ・新幹線、地下鉄桜通線、あおなみ線、地下駐車場間の動線をできる限り直線化
- ・リニアと地上部の交通施設、地下駐車場を結ぶ動線を確保

- ・中央コンコースと地下鉄東山線を結ぶ、できる限り直線的な乗換動線を確保
- ・JR(リニアを含む)、名鉄線、近鉄線、地下鉄間の乗換動線をできる限り直線化し、視認性の高い広場空間を確保

[調整事項] 駅前広場の交通機能の確保、地下街店舗・設備等の移設などの機能確保、リニア計画との整合、名鉄名古屋駅再開発計画との整合、名鉄名古屋駅北口改札機能の再配置

取組み 3

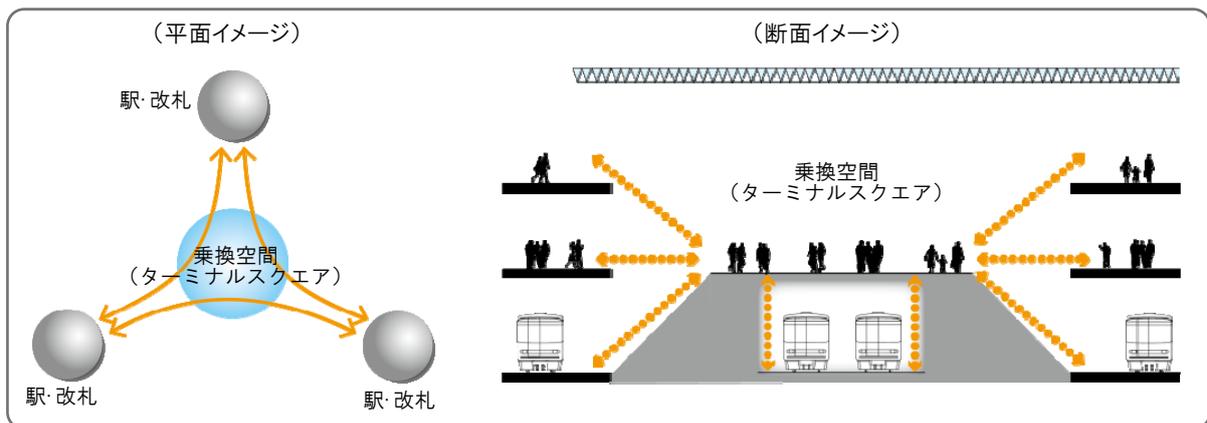
「(仮称)ターミナルスクエア」の形成

- JR在来線、名鉄、近鉄、地下鉄東山線の改札やバスターミナル等が設置されている駅東側や、東海道新幹線、JR在来線、地下鉄桜通線、あおなみ線等の改札が設置されている駅西側において、リニアとの乗換も考慮し、わかりやすい乗換空間を形成します。

(わかりやすい乗換空間の考え方)

- ・複数の交通機関相互の乗換動線や、駅とまちをつなぐ動線が交差する箇所において、動線の整流化やわかりやすさ、利便性向上のため、乗換先が一目で見渡せ、上下移動も円滑にでき、案内機能も備えた広場空間「(仮称)ターミナルスクエア」を形成する。

(仮称)ターミナルスクエアのイメージ



わかりやすい乗換空間の例

金山総合駅



中部国際空港セントレア
アクセスプラザ



取組み 4

乗換主動線の円滑化

- 名古屋駅は鉄道やバスなど複数の交通施設が地上、地下のさまざまな階層に分散していることから、高齢者や身体障害者等の上下移動や距離の長い水平移動の負担軽減を図るため、主要な乗換動線にエスカレーターやエレベーター、ムービングウォーク等を効果的に配置します。

円滑な乗換空間のイメージ

JR ゲートタワー(計画)



エスカレーターやエレベーターが効果的に配置されたイメージ



取組み 5

乗換を支える案内サインの充実

- 国内外からの来訪者を円滑に誘導するとともに、的確な情報提供を行うため、案内サインの充実を図ります。

(案内サイン充実の考え方)

- ・統一的なデザインや適切な配置、必要に応じた多言語表記などにより、利用者にとってより一層わかりやすく、見えやすい表示とする。

案内サインの例

①大型サイン(ヴィクトリア駅/ロンドン)



写真提供: ホテルジャーナリスト 小原康裕

②床面サイン(成田空港)



③特徴的なサイン(小倉駅)



交通施設を効率的・効果的に配置する

取組み 6

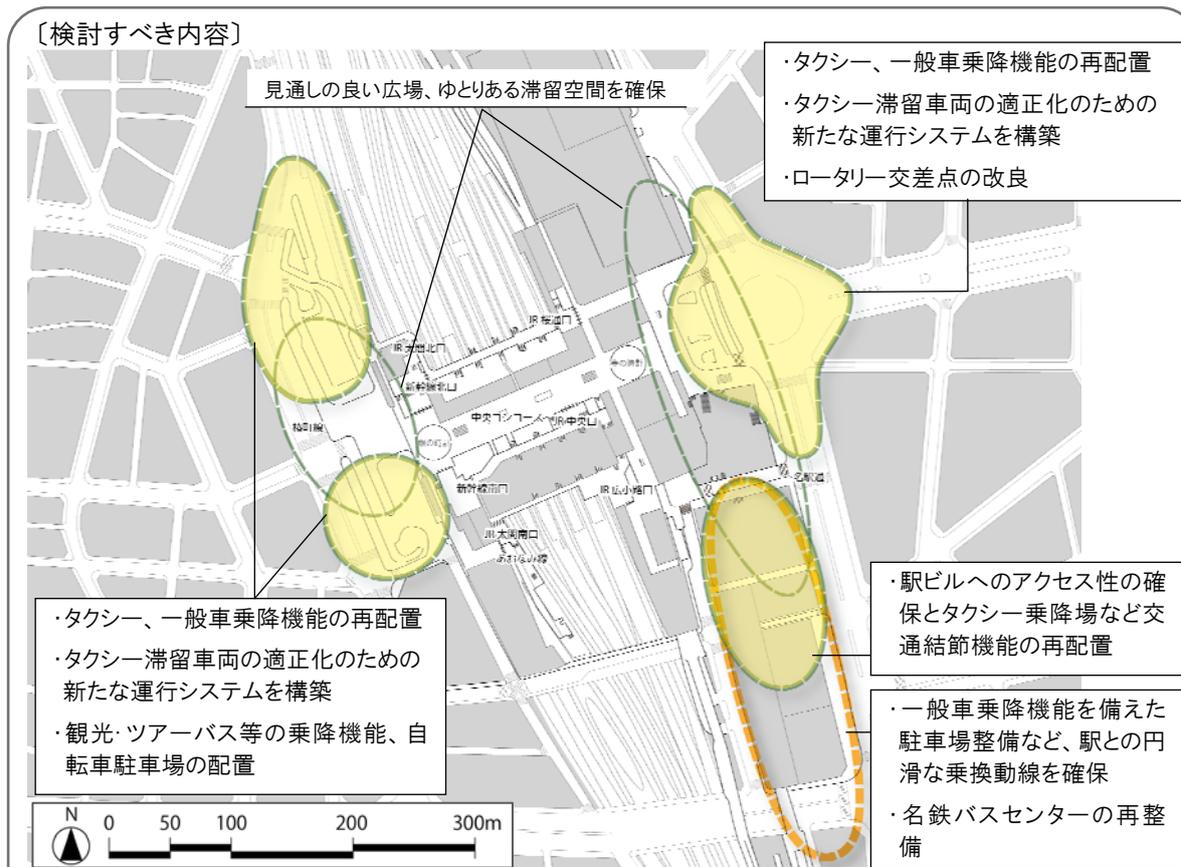
自動車交通施設の適切な配置

- 駅東西での利用実態やリニア計画等を踏まえて、駅へのアクセス性を確保し、必要な機能を効率的かつ効果的に配置した駅前広場周辺の再整備を行います。

(交通施設の適切な配置の考え方)

- ・ 駅前広場周辺の再整備においてタクシー乗降機能や一般車乗降機能は、鉄道やバス等との乗換利便性の確保、路上での乗降利用や車両滞留の抑制のため、適切に配置する。
- ・ バスの種別や運行実態などを考慮したわかりやすい施設配置を図る。
- ・ 自動車交通は駅と都心部とのスムーズなアクセスを確保する。

〔検討すべき内容〕



〔調整事項〕 タクシー等滞留機能の確保、荷捌き施設の移設先の確保、駐車場設備等の移設先の確保、道路空間再配分による自動車交通への影響検証、リニア計画との整合、名鉄名駅再開計画との整合、名鉄名古屋駅北口改札機能の再配置、通過交通抑制の具体的方法

取組み 7

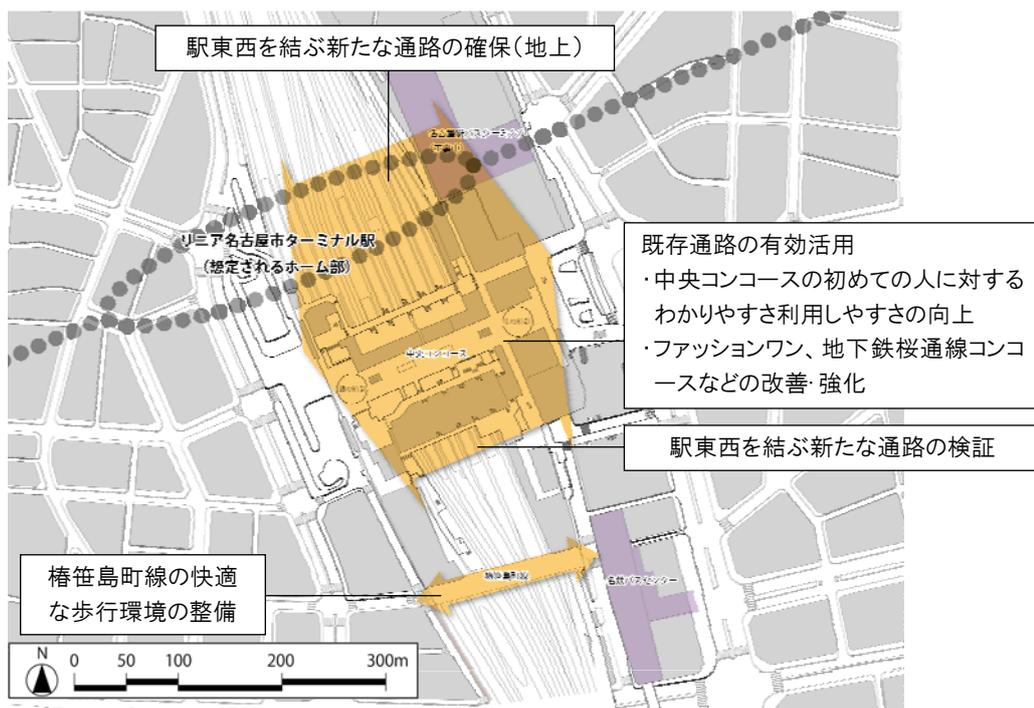
駅東西にある交通施設のネットワークを強化

- リニアのターミナル駅として、国内外からの来訪者に対してわかりやすい駅空間の形成に向け、中央コンコースにおける質の向上に資するとともに、交通施設間のつながり等を向上させるため、駅を横断する東西ネットワークの強化を図ります。

(駅東西のネットワーク強化の考え方)

- 乗換の軸である中央コンコースにおける快適性の向上や駅東西に位置する交通施設間の連携等を図るため、東西ネットワークの充実・強化を図る。
- 新たな通路の確保や既存通路の有効活用、既存道路の環境整備などにより効果的なネットワークを形成する。

[検討すべき内容]



各階層による東西ネットワーク



[調整事項] リニア計画との整合、地下街店舗・設備等の移設などの機能確保、椿笹島町線の自転車駐車場機能の確保

取組み 8

交通施設間や駅とまちをつなぐ南北ネットワークの強化

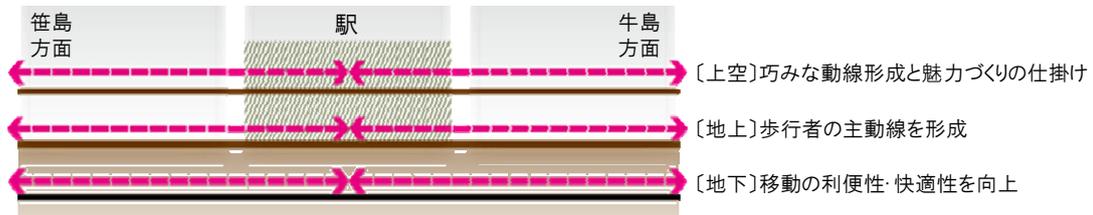
- 駅東側では、民間再開発とも連携しつつ、南北方向の重層的な歩行者ネットワークの強化を図ります。
- 駅西側では、駅前広場の再整備などにあわせ、南北方向の歩行者ネットワークの強化を図ります。

(南北ネットワークの考え方)

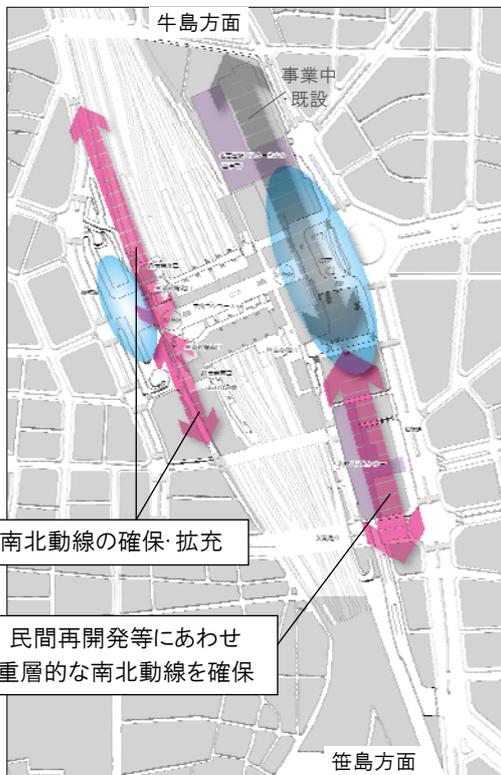
- ・ 駅から牛島方面及び笹島方面への上空、地上、地下での南北動線を確保する。
- ・ 地下部において、歩行者が多く、動線が交差する箇所でのゆとりある空間を形成する。

[検討すべき内容]

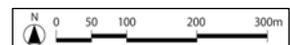
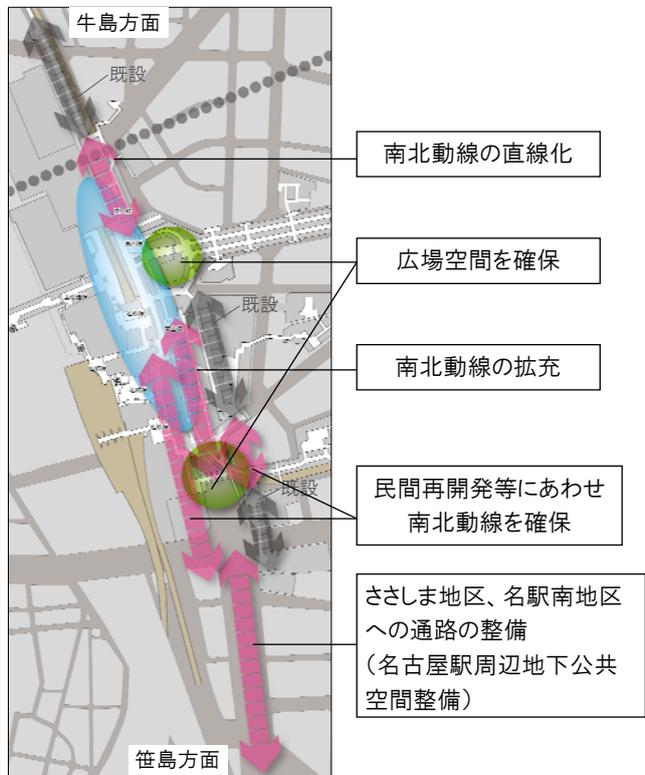
重層的な南北ネットワークのイメージ



(上空・地上部)



(地下部)



建物内貫通通路のイメージ
/JRゲートタワー(計画)



地下広場空間のイメージ



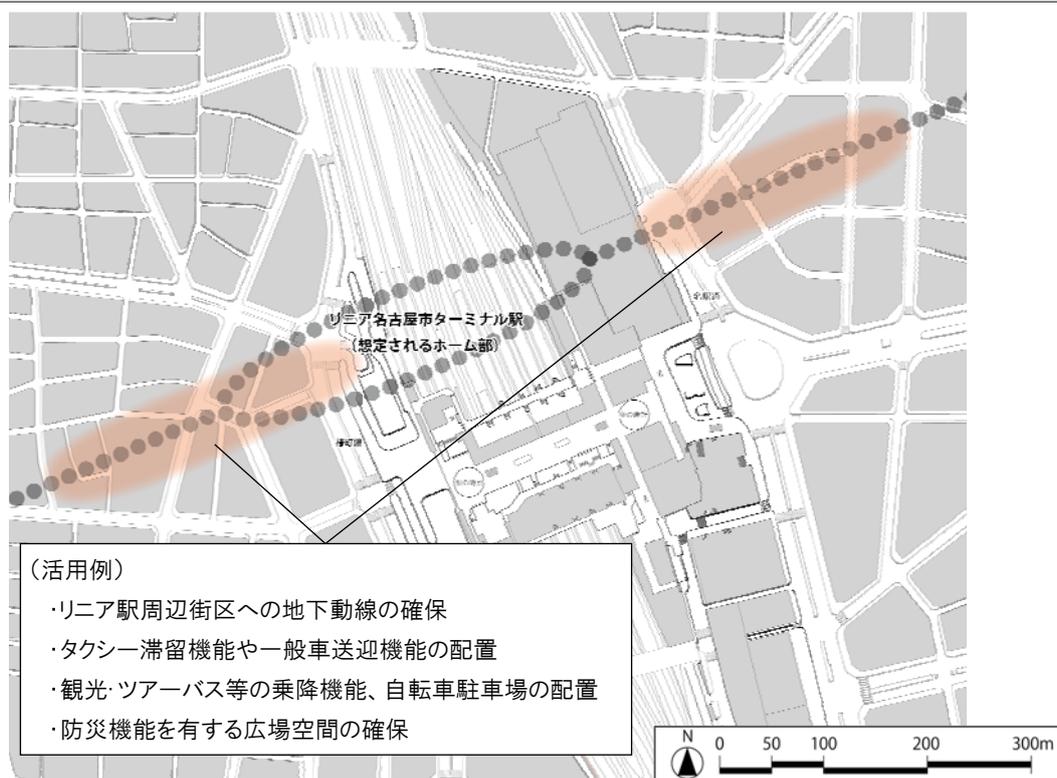
〔調整事項〕 地下鉄東山線設備等の機能確保、地下街店舗・設備等の移設などの機能確保、リニア計画との整合、名鉄名駅再開発計画との整合

取組み 9

リニア駅の上部空間における有効活用

●リニアの名古屋市ターミナル駅が、開削工事により建設されることから生じる上部の空間を有効活用します。

(検討すべき内容)



〔調整事項〕 リニア計画との整合、地下街店舗、設備等の移設など機能確保

▶ 広域道路ネットワークへのアクセス性改善を推進する

取組み 10

駅と都市高速道路とのアクセス性の向上

- リニアの速達性を活かし、充実した高速道路ネットワークを最大限に活用できるよう、駅と高速道路とのスムーズなアクセス性を確保します。

(アクセス性向上の考え方)

- ・自動車交通は、通過交通の迂回・分散を図りつつ、駅と高速道路とのスムーズなアクセスを確保する。

